

第1回 日本定量NMR研究会年会 プログラム

日時 2019年12月13日(金)

会場 国立研究開発法人産業技術総合研究所
臨海副都心センター 別館11階

12:00 ~ 開場・受付

13:00 ~ 13:10 開会挨拶

セッション1

座長 藤田 和弘

13:10 ~ 13:40 qNMR 分析における外部標準法の有効性と分析値にバラつきを与える要因の整理

国立医薬品食品衛生研究所 西崎 雄三

13:40 ~ 14:10 医薬品開発のための qNMR verification study

エーザイ株式会社 澁口 奈央

14:10 ~ 14:30 定量NMRの現状：qNMR summit 2019 in USP の出張報告など

国立医薬品食品衛生研究所 杉本 直樹

ポスターセッション

14:30 ~ 15:30 ポスター発表

セッション2

座長 合田 幸広

15:30 ~ 16:00 CRAFT の定量分析への応用例

株式会社 JEOL RESONANCE 小松 功典

16:00 ~ 16:30 NMR メタボロミクスによる薬用植物の品質評価

城西大学薬学部 鈴木 龍一郎

16:30 ~ 16:35 閉会挨拶

17:00 ~ 情報交換会

ポスター発表

- P-1 日本薬局方外標準品インドシアニングリーンの恒温恒湿下における定量 NMR (qNMR) を用いた絶対純度
○内山 奈穂子¹, 細江 潤子¹, 石附 京子¹, 杉本 直樹¹,
小出 達夫¹, 村林 美香², 小野 誠³, 小林 謙吾³, 藤峰 慶徳⁴,
横瀬 俊幸⁴, 大藤 克也⁵, 清水 仁⁵, 長谷部 隆⁶, 浅井 由美⁶,
江奈 英里⁶, 菊池 純子⁷, 清田 浩平⁷, 藤田 和弘⁷, 牧野 吉伸⁸,
八十歩 直子⁹, 大原 拓郎⁹, 山田 裕子¹⁰, 鈴木 裕樹¹⁰,
三浦 亨¹⁰, 水井 浩司¹⁰, 朝倉 克夫¹¹, 末松 孝子¹², 小浜 亜以¹³,
合田 幸広¹ (1国立衛研, 2武田薬品, 3第一三共, 4大塚製薬, 5中外製薬,
6エーザイ, 7塩野義製薬, 8十全化学, 9富士フイルム, 10富士フイルム和光
純薬, 11日本電子, 12JEOL RESONANCE, 13RS 財団)
- P-2 定量 NMR による清涼飲料水の迅速かつ簡便な有機組成分析について
○山本 佳奈 (一般財団法人日本食品分析センター 多摩研究所)
- P-3 定量 NMR 標準作業書の作成 (2)
○梶 紀裕 (株式会社三井化学分析センター 構造解析研究部)
- P-4 NMR を用いたグルタミン分解反応の評価
○小倉 立己^{1,2}, 若山 正隆¹, 曾我 朋義¹, 富田 勝¹ (1慶應義塾大 先端生命科学研究所, 2公益財団法人庄内地域産業振興センター)
- P-5 医薬品製造における工程管理, 品質管理への qNMR の活用
○前澤 芳彦, 北畠 睦己 (富士フイルムワコーケミカル株式会社 技術開発センター)
- P-6 Single-reference HPLC 法によるステビオール配糖体の一斉定量
○増本 直子¹, 中島 馨¹, 小泉 茉友², 大内 政輝², 西崎 雄三¹,
石附 京子¹, 鈴木 俊宏², 兎川 忠靖², 杉本 直樹¹, 佐藤 恭子¹
(1国立衛研, 2明治薬大)
- P-7 Outline of JIS K 0138 (2018) General rules for quantitative nuclear magnetic resonance spectroscopy
○三浦 亨, 菅原 浩夫, 岩本 芳明 (富士フイルム和光純薬株式会社 機能性材料研究所)
- P-8 軽水試料の定量 NMR 法の検討
○松村 雄輝 (株式会社東レリサーチセンター バイオメディカル分析研究部)

- P-9 高純度重水素化溶媒の開発
○高岡 真也, 三浦 亨, 中尾 慎治, 岩本 芳明 (富士フイルム和光純薬株式会社 機能性材料研究所)
- P-10 各種 NMR 関連製品の開発
○水井浩司, 早川昌子 (富士フイルム和光純薬株式会社 ケミカル開発部)
- P-11 定量 NMR 解析プラグイン Mnova qNMR
○梅本 伸一 (株式会社リアクト)
- P-12 定量分析ツール PotencyMR と定量 NMR のための適格性評価 (qPQ)
○平野 桐子 (ブルカージャパン株式会社)
- P-13 ウルトラマイクロ/マイクロ天秤用恒温恒湿システム FS-71100CTH
○山本 洋生 (日本電子株式会社)
- P-14 電子天びんの選定基準となる「最小正味重量」、「最小計量値」、「安全係数」の関係
○弘中 一平 (メトラー・トレド株式会社)
- P-15 qNMR 分析における外部標準法の有効性と分析値にバラつきを与える要因の整理
○西崎 雄三 (国立衛研)
- P-16 医薬品開発のための qNMR verification study
○澁口 奈央 (エーザイ株式会社)
- P-17 CRAFT の定量分析への応用例
○小松 功典 (株式会社 JEOL RESONANCE)
- P-18 NMR メタボロミクスによる薬用植物の品質評価
○鈴木 龍一郎 (城西大 薬学部)